

連載コラム



みずき野と
その周辺の
植物と昆虫



第34回

針葉樹(2) ～ ヒマラヤスギとマツ ～



もとよし ふさお
本吉 總男

2017年6月

(2019年1月一部改訂)

今回は針葉樹の第2弾として、ヒマラヤスギとクロマツおよびアカマツについて書くことにします。ヒマラヤスギは日本に原産する樹木ではありませんが、その姿の美しさは針葉樹の中でも抜きん出ており、各地の庭園や公園に好んで植えられています。クロマツやアカマツは在来種で、建築や家財道具の材料として使われる身近な樹木です。またマツは、松島や三保の松原のように、美しい景観を作ります。三保の松原は、歴史的な重要性によって、世界文化遺産「富士山」に組み入れられました。陸前高田市の高田松原が東日本大震災の大津波で壊滅してしまったことは、とても残念なことです。新たな植林により、松原の復元が期待されています。マツは寺社や庭園、公園に植えられる主要な樹木でもあります。

みずき野周辺の私有地では、針葉樹の仲間であるカヤ、イヌガヤ、イヌマキ、キャラボクも見かけます。キャラボクは生垣にも使われ、イチイを小さくしたような木で、イチイに似た果実をつけます。しかし、これら4種の樹木については、写真も観察も不足しているので、ここでは触れません。

1 ヒマラヤスギ

ヒマラヤスギはその名前からスギ科の植物と思われがちですが、実はマツ科の植物です。原産地はヒマラヤ西北部からアフガニスタンにわたっています。日本には明治12年頃渡来し、庭園や公園に植えられました。巨木ですから、花を観察することは困難です。また、雌花は樹齢30年以上にならないとつかず、それより若い木には球果(松かさ)はできません。球果は大きく、上向きにつきます。

ヒマラヤスギは郷州小学校正門の左右に、フェンスに沿って植えられています。ヒマラヤスギとしては、まだそれほど大きな木ではなく、また、球果がついているのも見たことがありません。



ヒマラヤスギ 5月上旬 郷州小学校北側



ヒマラヤスギ 5月中旬 守谷小学校西側

一方、守谷小学校のグラウンドの西側には3本の大きなヒマラヤスギがあり、同校のシンボルとされており、球果もつくそうです。

2 クロマツとアカマツ

クロマツもアカマツも本州、四国、九州、朝鮮半島南部に分布しています。クロマツとアカマツはよく似ていますが、違いはやはり樹皮の色。クロマツは暗黒色でアカマツは赤褐色。この目安で一応の区別はつきます。またクロマツの葉は暗緑色で剛直ですが、アカマツの葉は緑色で、クロマツよりも柔らかい感じですが、地域的には、クロマツは主として海岸にあり、アカマツは内陸に分布する傾向がありますが、守谷では両種が見られます。しかし、厄介なことに、クロマツとアカマツが混在する地域では、しばしば両種の間^{こうざつ}に自然に交雑が起こって雑種ができます。そのような雑種をアイグロマツまたはアイノコマツとといいます。クロマツおよびアカマツとアイグロマツとの識別は葉の断面を顕微鏡で観察する必要があります。

町内では、「みずき野十字路」交差点角の山富園の東側および北側の斜面にクロマツとアカマツが、3丁目東斜面にアカマツが見られます。ただし、それらはアイグロマツである可能性もありますが、そこまでの判定は今のところできません。下記の写真は、一応クロマツおよびアカマツとしておきます。



クロマツ 3月下旬 山富園北斜面



アカマツ 5月上旬 3丁目東斜面

クロマツもアカマツもひとつの木に雄花と雌花をつけます。春になると古い枝の先に新しい芽が伸びてきます。4月中旬から5月の初め頃、新しい芽の先端に2つないし3つの雌花がつきます。雄花はクロマツでは主として新しい芽の下部に、アカマツでは新しい枝のかなり上部までたくさんつきます。雄花が開花すると無数の花粉が風に飛びます。冬から春にかけての花粉症はスギやヒノキの花粉が主な原因ですが、マツの花粉は4月中旬から5月中旬にかけて、アレルギーを引き起こす原因となります。開花ののち、新しい芽に若葉が出てきます。



クロマツの花 4月下旬



若葉 5月中旬

いずれも 山富園東斜面



アカマツの花 5月上旬 3丁目東斜面

アカマツの雌花の
クローズアップ



アカマツの球果(松かさ)
5月下旬 3丁目東斜面

球果の中に
残っていた
アカマツの種子



地面に落ちていた球果(松かさ)に1つだけ種子が残っていました。種子が球果からこぼれ落ちるとき、風に乗って飛散するように、種子には平たい翼よくがついています。球果は実際には10月に鱗片りんぺんを開いて種子を飛散させます。その頃の種子は卵型で膨らんでいますが、上の写真の種子は成熟してから半年以上経っており、しなびています。種子についている翼よくは、鱗片りんぺんの表面に形成され、種子に付いて鱗片りんぺんから剥げ落ちます。つまり種子とは別の組織です。

クロマツやアカマツは、建築、家財道具、造船、パルプなどの材料として広く用いられます。かつて私はブログに「[公園のひよろ松君](#)」というタイトルの記事を載せたことがあります。北園ほくえん森林公園で見たマツの1本が、細いのに異様に丈が高く、それを見て驚きをもって書いた記事でした。この記事に「守谷の原始人」という方が次のようなコメントを下さいました。「この様な松は半世紀前には市内のどこでも見られ、家を建てる時の梁はりに使用するために横枝を枝打ちし背を高く伸ばしたものです。(以下略)」。詳細は上記リンク先を参照して下さい。

その記事を書いたから7年余り経っているので、「ひよろ松」が現在も健在かどうか、先日、現地に行って見えました。「ひよろ松」は相変わらずの姿で立っておりました。さらに記事を書いた当時気がつかなかった「ひよろ松」がもう1本ありました。なお、2本の「ひよろ松」はクロマツかアカマツか、あるいはアイグロマツか、判然としませんでした。



「ひよろ松A」 5月下旬 北園森林公園
ブログに載せた「ひよろ松」の7年後の姿



「ひよろ松B」 5月下旬 北園森林公園
先日見つけたもう1本の「ひよろ松」

● ● 松にまつわる話 ● ●

以下では、「マツ」は一部を除き「松」と漢字で表記します。

松は桜や梅とともに、古代より日本人に愛されてきた木です。常緑で、四季を通じて色が変わらないゆえでしょうか。なかには神が宿ると信じられ、神聖な木とされている名木もあります。松は多くの芸術作品に登場します。万葉集には松を詠んだ歌が79首もあります。斎藤茂吉が『万葉秀歌』(岩波新書)に取り上げた3首を載せておきます。

いざ子ども はやく日本へ 大伴の 御津の浜松
やまと おほとも みつ はままつ
 待ち恋ひぬらむ 山上憶良 (万葉集 63)
やまのうえのおくら

「さあ皆の者どもよ、早く日本に帰ろう、大伴の御津の浜のあの松原も、我々を待ち焦がれているだろうから」(茂吉の訳)

この句は大唐に滞在していた山上憶良が帰国に近い頃詠んだ歌のようです。

磐代の 浜松が枝を 引き結び 真幸くあらば 亦かへりみむ
いはしろ はままつ え まさき また
 有間皇子 (万葉集 141)
ありまのみこ

「自分にかかる身の上で磐代まで来たが、いま浜の松の枝を結んで幸を祈って行く。幸に無事であることが出来たら、二たびこの結び松をかえりみよう。」(茂吉の訳)

これは有間皇子の悲しい歌です。孝徳天皇の皇子である有間皇子は齊明天皇の時に謀反を企てたという名目で紀伊の行宮(天皇がお出ましの時の仮の宮居)で皇太子である中大兄皇子の尋問を受けるため、護送される途中、磐代の海岸の松の枝を結んで幸運を祈った時の歌。しかし有間皇子は紀伊の藤白坂で処刑され、再び自ら結んだ松ケ枝を見ることはできませんでした。

まきむく ひはら うれ あわゆき
 巻向の 檜原も未だ雲みねば 子松が末ゆ 沫雪流る
 かきのもとひとまる
 柿本人麻呂 (万葉集 2314)

「巻向の檜林にまだ雨雲が掛かっていないのに、近くの松の梢こずえにもう雪が降ってくる」(茂吉の訳)

松は万葉集以降も多くの詩歌に登場します。例えば、おなじみの百人一首にも、松を読み込んだ歌が3首あります。

立別れ いなばの山の 嶺みねにおふる まつとしきかば
 今かへりこむ 中納言ちゅうなごんゆきひら行平

(「松」と「待つ」を掛けている。お別れせねばならないが、「待っています」というお言葉を聞いたなら、すぐ戻って参りましょう)

たれ たかさご
 誰をかも する人にせむ 高砂の 松もむかしの ともならなくに
 ふじわらのおきかぜ
 藤原興風

(誰を知り合いにしたらよいのであろうか。歳とったあの高砂の松も昔からの友ではないし)

ちぎり そで すえ
 契きな かたみに袖をしぼりつつ 末の松山 なみこさじとは
 きよはらのもとすけ
 清原元輔

(「かたみに」は「たがいに」、「袖をしぼる」は「涙をながす」の意。あの末の松山を浪が越すことがないように、ふたりの間も変わることがないと涙ながらに互いに約束したのに、なんたることか)

ヌス・ピネアは、傘のような樹形をもつ特徴ある松です。[「ヴィラ・ボルゲーゼの松」の写真](#)をウィキメディア・コモンズのサイトで見つけました。どうやらこれらの松はピヌス・ピネアのような気がします。

「ローマの松」はYouTubeでも演奏を視聴することができます。カラヤン指揮、ベルリンフィルハーモニーの演奏もありますが、[アラン・ギルバート指揮、ニューヨーク・フィルハーモニックの録音の方](#)が聴きやすいので、そちらにリンクしておきます。ローマには行ったことがありませんが、松がどんな風景を作り出しているのか、たいへん興味があります。